

159 放射線治療患者における心の²⁰¹Tlシンチグラフィ

群馬大学 放射線科

○鈴木良彦 新部英男 細野紀一

伊藤一郎 宮石和夫 永井輝夫

近年、虚血性心疾患の診断における一検査法として²⁰¹Tlによる心筋シンチグラフィが注されてきている。当教室でも、いろいろな症例について²⁰¹Tlによる心筋スキャンを試みてきた。これらの症例中、食道癌、肺癌などのため放射線治療を受け、心臓が照射野に含まれた症例に興味ある知見が得られたので報告する。

対象は、昭和51年3月から昭和52年6月までに群大放射線科で行われた²⁰¹Tlによる心筋シンチグラフィ38例である。そのうち、過去に心疾患の既往がなかったもの32例（放射線治療に際し、心が照射野に含まれたもの16例、含まれなかったもの16例）、心筋硬塞の既往を有するもの5例、僧帽弁口狭窄症の既往を有するもの1例であった。使用した装置は、日立シンチカメラ（RC-IC-1205型）、及び日立RIデータ処理装置（EDR-4000型）で、²⁰¹Tl Cl₂mCi投与後5分より撮像し、体位は仰臥位正面、左前斜位（45°）及び左側面で行った。

（結果）過去に心疾患の既往がなく²⁰¹Tlスキャンが行われた32例について、心への照射の有無で比較してみると、心に照射の行われなかった16症例全例に正常と思われる心筋シンチグラフィ像が得られた。しかしながら、心に照射の行われた16例中6例には、照射野に一致して欠損像として認められる所見が得られた。この照射群を、心の被曝線量と照射からシンチグラフィ施行日までの期間について比較したところ欠損像を示した6例中、1例を除いた全例が、照射期間中にシンチグラフィが行われ、かつ1400rad以上の照射が行われていた症例であった。なお、これらの症例についての心電図所見は、現在検討中である。また、心に大線量を受けた症例でも、照射後長期間を経過したものには、欠損像が認められなかった。

一方、過去において心筋硬塞の既往のみられた5例では、全例に欠損像が認められた。また、僧帽弁口狭窄症の既往があり、心電図上も右室肥大の認められた1例では、左室壁の他、右室壁が明瞭に描出され、諸家の報告のごとく、²⁰¹Tlは、心筋イメージング製剤として優れていると考えられる。しかしながら、上記の結果から、心に照射を受けた症例にはシンチグラフィ上欠損像の認められるものもあり、心筋シンチグラフィ読影上、この点も十分注意が必要であろうと考える。

タリウム-201による心筋シンチグラフィの検討。—小児症例について—

慶応義塾大学医学部 小児科

○辻 敏敏， 小佐野 満

都立清瀬小児病院 循環器科

佐藤正昭， 浅石高澄

同 外科

石田治雄

同

放射線科

福元忠典， 大森一彦

小児の特発性心筋症，心内臓線維弾性症，皮膚粘膜リンパ腺症候群などの症例に，タリウム-201を用い，壁厚の測定，左室自由壁，中隔壁，右室自由壁のプロフィール，心電図所見との関係，心血管造影所見との対比等について検討してみた。

症例により，右室自由壁を明瞭に描写し，心電図所見を反映していた。又，心血管造影所見，特に皮膚粘膜リンパ腺症候群では，冠動脈の状態，心電図所見，タリウム-201との関係に興味ある結果がみられた。